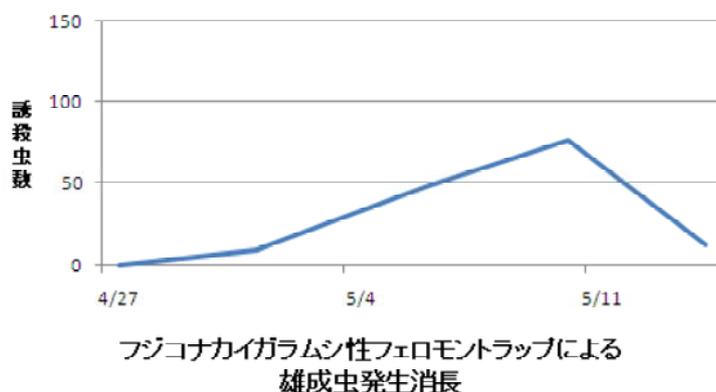


カキのフジコナカイガラムシの防除適期の予測

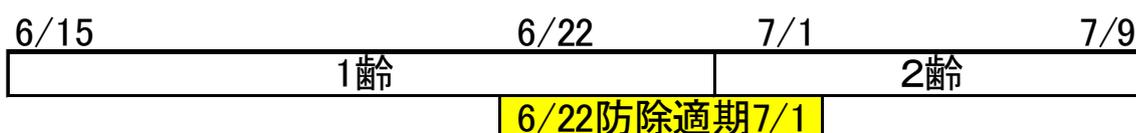
予想防除適期：6月22日～7月1日（6月3日計算）

島根県病害虫防除所

予測の根拠：フェロモントラップを出雲市多久町のカキ園に4月22日から設置しフジコナカイガラムシの越冬世代雄成虫を調査した。その結果、本年の発生ピークは5月10日となった。



誘殺ピークである5月10日を起点とし平均気温（6月2日までは2009年の気温、それ以後は平年値）を用いて次世代（第1世代）の発生時期を予測すると1齢期6月15日～6月30日、2齢期7月1日～7月9日となり、防除適期は6月22日～7月1日と推定された。



参考：フジコナカイガラムシ防除の最も重要な防除時期は第1世代の若齢幼虫期とされている（例年6月下旬）。近年、フジコナカイガラムシの性フェロモンが明らかになり、圃場における発生状況をより正確に把握できるようになった。そこで、今回このデータとフジコナカイガラムシの発育データを使って今後の発生を予測し、それに基づいて最適な防除時期を示した。今後も雄成虫の誘殺ピークにより発生予測を行う予定である。なお、この予測は一部山間地（赤名）では1週間以上遅くなりますのでご注意ください。